

“地域で認められ、必要とされる農業者になりたい”



松原 雅之（国東市）
平成25年就農
土地利用型＋高収益作物
（キャベツ、さつまいも）



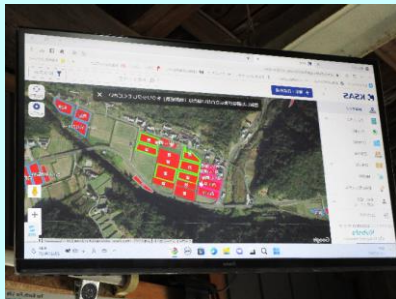
就農のきっかけと現在の取組

東京で働いていましたが、米・麦・大豆を栽培していた父の後を継ぐため27歳で帰郷しました。最初の2年間は大分県立農業大学校で、その後は世界の農業現場が見てみたいとアメリカで農業研修を経験しました。平成25年に就農し、地域の人から預かる農地が徐々に増え、現在経営面積は40ha。昨年法人化し、8名を雇用しています。

米麦大豆とキャベツを主に栽培していますが、中山間地域で1枚当たりの面積が狭く、管理するほ場枚数は360枚以上のため、ドローンや自動操舵トラクターなどのスマート農機を活用し省力化や効率化を図っています。ほ場管理システムや水管理アプリなども従業員間の情報共有に活用しています。

地域があること、買ってくれる消費者がいることで、営農できていることを常に忘れず、地域農業へ貢献し、周りから必要とされる農業者になりたいです。

※活用した国の補助事業（当時の名称）
・産地パワーアップ事業（機械導入）



今後の展望と皆さんへ一言

自社で生産した農産物で加工品を製造・販売したいです。また、自分がいなくても会社が成り立つように人材育成に力を入れ経営の強化を図りたいです。農業はそれまでの経験が生かせる仕事で、色々な職業等経験したほうが面白みのある生産者になれると感じています。自分の理想の規模や将来ビジョンをしっかりと描いたうえで、栽培作物を選ぶことが大事だと思います。また、危機感を持つことも大切なことです！



令和4年12月作成

産地生産基盤パワーアップ事業（農林水産省）

松原さんのように地域・産地で収益力強化を計画的に取り組む場合、高性能な機械・施設の導入や栽培体系の転換等を支援する農林水産省の補助事業です（令和元年度補正予算から名称変更）。詳しくは右のQRコードから農林水産省HPをご覧ください。

農林水産省HP
「産地生産基盤パワーアップ事業関係情報」

